



#Cranes for Our Future

#未来へのおりづるキャンペーン

2025

8.5_[火] – 8.9_[土]





「核兵器のない平和な未来」に向けて 世界中の人々とつながろう

80年前、広島と長崎に投下された原子爆弾は、街を破壊し、約21万4千人もの人々の命を奪い、歴史の流れを変えました。「ヒバクシャ」として知られる原爆の被害に遭われた方々は、核兵器の使用が何をもたらすのかについて、私たちに訴え続けてきました。喪失感やトラウマを抱えながらも、それを乗り越えようとする彼らの強い決意というものは、この暗い時代に警鐘を鳴らすものです。

今日、専門家たちは、核兵器の事故や意図的に再び使用されるリスクは、かつてないほど高まっていると指摘しています。核兵器を保有する国を含む地域間での対立が悪化の一途をたどるだけでなく、核兵器保有・開発をめぐる対立も勃発しています。世界で唯一残る核兵器数を制限する条約も、あと半年で失効します。さらに、新たなテクノロジーやAIの登場により、すでに存在する複雑なシステムに更なる予測不能なリスクをもたらしています。滅亡の脅威が安全を保障するものであるという誤った前提により、私たちの世界は、高コストかつ危険な新たな軍拡競争に陥っています。

私たちがどのような結末を迎えるのかはまだ確定していません。その中で、私たちは創造力を発揮して、核の危機から救うための主導的な役割を果たす必要があります。

語られる「物語」には力があります。1983年、核戦争を扱ったテレビ映画『ザ・デイ・アフター』は、1億人のアメリカ人に衝撃を与え、レーガン大統領に核軍縮を急がせるきっかけとなりました。その頃、核兵器増強への国民の支持率は61%から16%へと急落しました。こうした核兵器にまつわる物語は、世界中の核保有量を80%削減する歴史的な条約成立への道を切り開いたのです。しかし今日、40年ぶりに、世界の核兵器の数が再び増加しています。

しかし、私たちにはこれを変える力があります

私たちは、核兵器が、私たちの文明と安全に容認できないリスクをもたらすと考えています。私たちは、コストのかかる新たな軍拡競争や、さらなる核兵器の開発には断固として反対し、核兵器が二度と使用されないよう、世界各国の指導者たちに呼びかけます。

これは、私たちの声や、プラットフォーム、リーダーシップ、語り部活動などのノウハウを駆使して、核兵器がもたらす危険性に注意を喚起し、核兵器の無いより安全な未来を想像するための公約です。共に力を合わせれば、指導者たちに核兵器のない世界に近づき、最後には到達するよう求めるための、十分な基盤（クリティカル・マス）を築くことができるでしょう。

核兵器による犠牲者と被爆者皆様のために、そして私たちの未来のために、ぜひご参加下さい。



アーネスト・モニツ
核脅威イニシアティブ(NTI)
共同議長兼CEO



大石賢吾

大石賢吾
長崎県知事



湯崎英彦

湯崎英彦
広島県知事
へいわ創造機構ひろしま代表



被爆者からのメッセージ

島田 佳美 (広島県)

私は3歳の時、広島市己斐町で被爆しました。

原爆投下の8月6日朝、私と妹、私の実家に身を寄せておられた女の子3人で布団部屋に頭を突っ込んだことを鮮明に覚えています。その後原爆の惨状を耳にするたびに大変なことであったと思います。

今後、子ども・孫が、戦争のない核のない平和な世界が続くことが一番と思い、私たちに何ができるか、この歳になって一人ではなかなか行動も難しいため、「おりづるキャンペーン」を通して皆さんと共に世界に向かって平和への思いを発信していくことが出来ればと思います。

今年は被爆80年、またノーベル平和賞受賞と広島も変化の8月6日を迎えるのではないのでしょうか。

皆さん元気に原爆の日を迎えましょう。



丸田 和男 (長崎県)

1945年8月9日、爆心地から800メートルの所にあった旧制瓊浦中学校の1年生300人は、期末テスト最終日の英語のテストを終え、午前10時半ごろまでに校門を後にした。家路について間もなく、運命の11時2分を迎え、1年生の三分の一を上回る114人が命を落とし、再び学びの庭に姿を現すことはなかった。その一割余りの十余名はどこでどのような最後を迎えたのか遺体さえも見つからなかった。いまだ12、3歳の少年の身で、戦場でもない長崎で、しかも戦争が終るわずか6日前に原爆で命を奪われた学友たちの無念さを思うと、80年たった今でも強い悲しみと憤りを禁じ得ない。

昨今の世界情勢を見ると核軍縮とは反対に核軍拡の方向に進んでいるといわれる。被爆体験を語り継ぐことは、生き残りたる者の義務であり、それは全人類に対する責務と言える。われわれ長崎のヒバクシャは、改めて声を大にして「長崎を最後の被爆地に」と世界に向って呼びかけよう!!



おりづるの折り方と #未来へのおりづるキャンペーンへの参加方法

「おりづる」を折ることは、世界がより安全で、よりよい未来を願うことにつながります。
2025年8月5日から9日の間に、世界中の皆さんとともに、おりづるを折り、より安全で、よりよい未来を願う思いと共に、ハッシュタグ#CranesForOurFuture、#未来へのおりづる をつけて、あなたもソーシャルメディアに投稿しましょう。

1. おりづるを折ります。よろしければ、同封の折り紙をお使いください。
折り方のビデオは、<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/peace80/action-cranes.html> で
ご覧いただけます。.....→  
2. 写真を撮っていただきます。おりづるをアップで撮影したり、おりづるを手に持っているところや、
お友達・ご家族と一緒になどスタイルは自由です。
明るいところでの撮影をお願いいたします。 
3. 8月5日から8月9日までにSNSに写真と平和へのメッセージをご投稿ください。
ご自身のSNS【Instagram、X(旧Twitter)、Facebook等】で、おりづるの写真とメッセージを
シェアしてください。 
#CranesForOurFuture または、#未来へのおりづるをつけてください。
4. ご家族やご友人、所属されるグループの皆さんにも、
このキャンペーンに参加していただくよう、お声がけください。 

ソーシャルメディアを利用されていない方へ

お作りいただいたおりづるや願い事を、HOPE ウェブサイトやソーシャルメディアで共有のお手伝いをいたします。8月5日までに、写真、
願い事、お名前、HOPE が投稿することを許可する旨をメールで chiheiwa@pref.hiroshima.lg.jp までお知らせください。

折り鶴を投稿する際に使用するソーシャルメディアのテキスト例

1. 今日、世界中の人々と一緒に、核兵器のない未来のために、折り鶴を折ります。ごいっしょにぜひどうぞ！
<https://www.CranesForOurFuture.org> #CranesForOurFuture #未来へのおりづる
2. これは私の孫と一緒に折った折り鶴です。孫のためにも、核兵器は過去の遺物にしたい。明るい未来を築いていきたいと思っています。
あなたも平和の週末に参加しませんか？ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/peace80/action-cranes.html>
#CranesForOurFuture #未来へのおりづる
3. 未来の世代のために、私たちにはできることがたくさんある。自分の家族のためにこのおりづるを折ります。#CranesForOurFuture
#未来へのおりづる
4. 私と一緒におりづるを折って、核兵器のない未来に向けて声を上げましょう。
#CranesForOurFuture #未来へのおりづる
5. 広島・長崎の原爆投下でなくなった方々、そして世界中の核の被害者やコミュニティを悼みます。核兵器のない世界をめざして。
#CranesForOurFuture #未来へのおりづる

このキャンペーンをオンラインで広めていただくために、画像や例文をご用意しています。
<https://www.CranesForOurFuture.org/jp/toolkit> のデジタルツールキットをご覧ください。

